

私にと、この本

進学課程E組 李 皓森

私は本が好きだ。本を好む人にと、読書もさることながら、本を買うということも楽しみの一つである。

私は子供の頃、本を読むことが好きにな。た。でも、それは勉強のためではなく、逆に宿題をしたくなから、たからだ。あの頃は、宿題を終わらせなければ外で遊ばせてもらえな。が、だし、テレビも見せてもらえな。が、たの。だが、どうしても宿題をしたくな。が、た私は両親が買、てくれ本を読み始めた。『小学。生優秀作文選』や『十万個のなぜ』という百。科事典などの本をたくさん読んだ。宿題にはほとんど手を付けず、まじめな子供とは言い。がた。が、それをき、かけに私は読書と。いう趣味を持つようになった。

とはいえ、親が買、てくれた本は全部が面白。いわけではない。それで、中学時代、私は書店で好きな本を探さうにな。た。しかし

その時、私のお小遣いは多くなか。左から、
本を買うためにお小遣いを貯め、本を買う時
は慎重に本を選ぶようになった。このような
経験を通して、私は大人大人本に関する知識
を得たのだ。

例えば、本は内容以外にも製本の種類も大
切だ。一般的に製本は「並製本」と「上製本」
の二種類に分けられる。並製本は左を一枚の
厚い紙を表紙として、接着剤でつないでいる
だけなので、値段も手頃で手に入れやすい。
それに対して、上製本は中の紙の品質の良さ
もさることながら、表紙は布または革でつく
られているものが多く、本の中のページは糸
と接着剤で繋いでいるため耐久性が強い。ま
た、「しおり」や「花布」も付いているから
便利さも高く高級感もある。ある上製本は表
紙と背に金箔を塗、革やかき装飾しており
もちろん値段も高い。私は初めて各ページの
最上部を金色で塗、という「天竺」の本を見
た時、「こんな美しい本があるのか」と衝撃

を受けた。それ以降、私は本を買おうとする時、本の装丁にも注意を払うようになった。私の本を買う趣味が高じるとともに、本に費やす金額も増えている。いかに本を安く買うか工夫をしなければならぬ。「本屋を探して、インターネットで買うのが一番安い。」学校の先生がそう教えてくれた。「バーゲンセールの際に買うのが一番安いよ」読書SNS仲間からそういうアドバイスをもらった。しかし色々な方法の中で私が最も好きなのは、古本屋で本を探すという方法である。

なぜなら、私は古本屋の雰囲気がとても好きだからだ。古本屋は博物館のように歴史を保存していると私には思えるのだ。でも、この博物館には案内などなく、迷宮のようで、自分で探さなければ何も分からない。その未知の空間が広がる古本屋で過去の本に囲まれていると、まるでその時代に戻ったかのようだ。過去につくられた本を開き、そこに記された文章を読むにつけ、その時の思想や知識

さらには雰囲気までもは、きりと感じられる。
そして、古本の中には知識もさることながら、
時には人との想いも保存されている。私は表
紙の裏に手紙や葉書がついている本を買った
ことがある。中には恋人や家族を想ったもの
や、先生が学生の将来を願ったものもある。
それらの元の所有者の痕跡が残った本は、彼
らの気持ちや想いを保っており、その大切な
感情は、何年もの時を経て手に取った私にも
ありありと感じられる。本を買うための努力
そして本の中に秘められた想いを見出すの
は本を買う大いなる楽しみでもある。
インターネットが誕生する前の数千年、人
類はずっと筆と紙で知識や感情を伝えてきた。
書籍があれば私たちが昔の人々の思想を感じ
取れる。「人類が使っている道具の中で、最
も素晴らしいのは間違いなく『本』である。
望遠鏡は目の延長、電話は声の延長、剣は腕
の延長である。しかし、本はそれとは別のもの
で、記憶と想像力の延長である。」作家ボル

へスはそう言、だ。読書は作者の声を聞くもの
だ。昔の人の声を聞いて彼らの想像と人生
の経験を読み、それに同感するのもよし、批
判するのもよし、どちらも自分の代わり映え
のない毎日と全く違う体験だ。その体験こ
そ、読書の醍醐味である。

金や権力のために本を読む人もいれば、自
分の国を強くするために本を読む人もいる。

しかし、私にと、て本を買うことは、本を読
むことは、あくまで楽しみのためにすること
だ。